

- 令和2年11月に発足した「木曾川中流域かわまちづくり協議会」の第2回協議会を、WEB方式によるオンラインで開催。
- 歴史文化、健康と食、観光などの魅力的な地域資源の紹介、サイクリングや徒歩などによる地域資源をつなぐための移動手段、行政と民間の連携などについて意見交換を実施した。
- 今後は、社会状況を踏まえつつ、協議会として連携した活動ができるところから進めていくこと、連携を具体的に進めるための作業部会を設置することとされた。

開催日：令和3年2月2日（火）
会場：WEB会議方式による実施
議事：1)挨拶
2)これまでの経緯について
3)令和3年度の活動に向けた意見交換
出席者：【委員】美濃加茂市長、各務原市長、坂祝町長
犬山市長、江南市長、扶桑町長
【河川管理者の長】木曾川上流河川事務所長
【オブザーバー】岐阜県 ※可児市長、愛知県は欠席

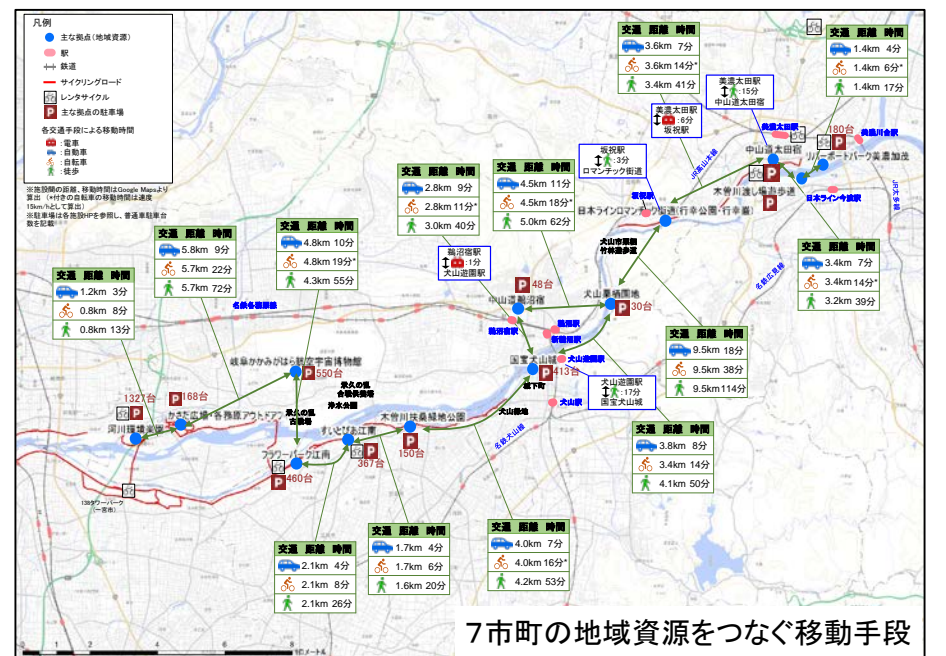


WEB会議の開催状況



地域資源マップに「健康」と「食」を追加

主な地域資源(健康・食)	
健康	①リバーポートパーク美濃加茂(水上アクティビティ)
美濃加茂市	②かかみがはらシマラン
各務原市	③各務原市総合運動公園
可児市	④木曾川渡し場遊歩道(川や城の散歩道)
坂祝町	⑤日本ラインロマンチック街道
犬山市	⑥犬山ハーフマラン(いぬやまランニングフェスティバル)
江南市	⑦サイクリングロード
扶桑町	⑧サイクリングロード
木曾川渡し場遊歩道	サイクリングロード
食	
美濃加茂市	①リバーポートパーク美濃加茂(バーベキュー場)
各務原市	②河川環境楽園
可児市	③各務原浄化センター(バーベキュー)
坂祝町	④はらま多目的広場
犬山市	⑤慰労亭
江南市	⑥青のいぬやMARCHE
扶桑町	⑦徳太郎公園「栗園園地」(徳太郎あじまつり)
木曾川扶養館公園	(バーベキュー場)
軽トラ市	犬山栗園園地



7市町の地域資源をつなぐ移動手段

令和3年度の活動に向けた意見交換（地域資源や、それらをつなぐ移動手段の充実について）



▲伊藤 美濃加茂市長

- 美濃加茂市では約30年前に、東濃ヒノキを運ぶ筏を再現する取組があった。
- 各地区の歴史的背景を学ぶことが重要と考えおり、木曾川の川下りをいかに復活させるかや河川の安全性、法制度等を研究する機関になれば望ましい。
- 将来的には、7市町を歩行や自転車等をつなぎ、名産を味わうような連携を実現したい。



▲山田 犬山市長

- 遊覧のコンテンツ強化や、栗栖地区におけるまちづくりのビジョンとりまとめを進めている。
- 今後の協議会の展開として、木曾川に関連した連携を進めることが重要である。
- 特に、民間の力を引き出す「官民連携」と、賑わいを生む既存のコンテンツの連携等による「富を生み出す仕掛け」の2つがポイントと考えている。



▲浅野 各務原市長

- 特産であるニンジンや、近隣市町との連携実績もあるイベント「かかみがはらシティマラソン」「かかみがはらDEウォーキング」等を通じて、交流人口の増加や地域活性化につなげたい。
- 移動手段としてサイクリングロードの延伸を進めている。令和3年度は各務原大橋から浄化センターまでの区間を整備したい。



▲澤田 江南市長

- 食の地域資源として、地域ブランド化した「越津ねぎ」や、市内に3軒ある酒造、さらには若い女性に人気の江南スイーツフェスティバルが挙げられる。
- 整備されたサイクリングロードや遊歩道がスポーツイベント等に利用され、連携にも活用できる。
- 既存の地域資源をつなぐ遊歩道を結ぶことや、乗り捨て可能なレンタサイクルの導入も考えられる。



▲柴山 坂祝町長

- 日本ラインロマンチック街道は、日常的な健康づくりやマラソンの会場として活用されている。
- 令和2年10月に、初の「軽トラ朝市」を開催した。コロナ収束の暁には飲食物を提供するキッチンカーまで出店を拡大し、さらに盛り上げていきたい。
- 中山道の遊歩道整備（県事業）を進めている。坂祝駅へのレンタサイクル導入も検討したい。



▲鯖瀬 扶桑町長

- 守口大根や、ブランド化した自然薯をPRしたい。
- 扶桑緑地公園では、キッチンカーを呼べるようなイベント広場としての整備が望ましいと考えている。
- 新愛岐大橋が開通されれば、サイクリングロードで愛知・岐阜を周遊することも可能となる。
- 扶桑緑地公園の駐車場は小規模だが、遊歩道の利用客で平日含め稼働が高く、整備を考えている。

意見交換

- 協議会は現状では官主導となっているが、「官民連携」及び「富を生む仕掛け」は必要である。特に、木曾川を盛り上げるための民間団体の育成も重要ではないか。【各務原市長】
- 協議会という組織が立ち上がったので、7市町として取り組むことを絞り込む必要がある。例えば木曾川の上流から下流までドローンを飛ばしながら、取組や歴史を紹介していくようなことができないか。【美濃加茂市長】



▲高橋木曾川上流河川事務所長

- 今後、社会状況を見ながらではあるが、協議会として市町と連携した活動をできることから進めていきたい。
- それらの活動の具体的な議論ができる場として、協議会の下に実務者レベルの作業部会を設置させていただき、引き続き内容を深めていきたい。